

■第2期田辺市総合戦略の全体像と地域幸福度（Well-Being）指標の対応表

基本目標	数値目標	施策の基本的方向	具体的な施策					田辺市の状況	地域幸福度（Well-Being）指標 （デジタル庁 <a href="https://well-being.digital.go.jp/">https://well-being.digital.go.jp/</a> ）				
			施策 大分類	施策 小分類	施策内容	主な事業	重要業績評価指標（KPI）		田辺市総合戦略に対応する 地域幸福度（Well-Being）指標	地域幸福度（Well-Being）指標 におけるKPI			
基本目標1：新たな人の流れの創出・拡大～「ふるさとに帰ってくる」、「新しく移り住む」、「多様に関わる」人の流れをつくり、ふやす～	転出超過数	➤ 田舎暮らしを志向する人に対して、住宅や仕事等の受入環境を充実させることで、更なる移住・定住を促進します。 ➤ 本市出身者が大学卒業や結婚等の人生の転機において、「ふるさとに帰ろう」と選択できる施策の充実を図ります。 ➤ 世界遺産である熊野古道をはじめ、本市が有する様々な地域資源を最大限に活用することで、観光産業の基盤を拡充し、交流人口の拡大を目指します。 ➤ 都市部在住者、学生、民間企業等、多様な人及び団体とのつながりをつくり、様々な形で地域づくりを支えてくれる関係人口の創出・拡大を目指します。	1-1. ふるさと回帰・多様な移住の促進	1）住む場所の確保	■ 移住を検討されている方が本市での生活を体験できるお試し施設として、短期滞在施設の運営を行います。 ■ 移住者への生活情報の提供をはじめ、空き家の斡旋等を行うワンストップ相談窓口の充実や、空き家に対する改修費用の支援を行います。 ■ 空き家所有者に対し、空き家の利活用を助めることで、移住者向けの物件の確保を進めます。	■ 短期滞在施設の運営 ■ 移住者に対する空き家改修や起業に係る費用の支援 ■ 任期終了後の地域おこし協力隊員に対する起業支援 ■ 農林水産業や介護職への新規就業支援 ■ 総合的な移住情報の発信や移住フェア・セミナー等への積極的な出展 ■ Uターン促進施策の推進 ■ 小・中学校における地域語り部活動の実施 ■ 中学校における武道教育（合気道）の導入支援 ■ NPOふるさと回帰支援センターとの連携検討	・市を通じた移住者数 ・移住相談件数 ・都市部での移住面談件数 ・短期滞在施設利用件数 ・移住支援制度活用件数 ・空き家登録件数	・田辺市定住支援協議会 SUMORA TANABE <a href="https://tanabegurashi.jp/">https://tanabegurashi.jp/</a>  ・UIわかやま就職ガイド <a href="https://www.wakayama-uitem.jp/">https://www.wakayama-uitem.jp/</a> ・わかやま就職支援センター はたらコーデわかやま <a href="https://hataracoorde.com/">https://hataracoorde.com/</a>  ・和歌山県公式移住ポータルサイト わかやまLIFE> 空き家バンク情報 <a href="https://www.wakayamagurashi.jp/house/">https://www.wakayamagurashi.jp/house/</a>	○住宅環境 ・適度な価格で、十分な広さの居住空間を確保できるか？  ○事故・犯罪 ・犯罪は少ないか？  ○雇用・所得 ・十分な雇用機会があるか？  ・適切な水準の所得を得られるか？  ○事業創出 ・スタートアップが振興する環境があるか？	・平均地価（住宅地） ・一戸建の持ち家の割合  ・人口あたり刑法犯認知件数 ・空家率  ・完全失業率 ・若年層完全失業率 ・正規雇用者比率 ・高齢者有業率 ・高卒者進路未定者率 ・市区町村内で従業員している者の割合 ・創業比率  ・納税者あたり課税対象所得			
				2）働く場所の確保	■ 農林水産業や観光、福祉等の様々な分野において、移住者の新規就業を支援します。 ■ 商店街の空き店舗への出店や、山村地域における移住者の起業を支援します。 ■ 任期終了後における地域おこし協力隊の定住・定着を図るため、地域おこし協力隊の起業に向けた支援等を行います。								
	565 人 (H30)			250 人 (R6)	3）移住促進に向けた外部への魅力発信	■ 市定住支援協議会のホームページや他の移住支援サイト等を活用し、本市でのライフスタイルを紹介する等、総合的な移住情報の発信・強化を図ります。 ■ 県等が実施する移住フェアやセミナーへの出展などを通じて、移住先としての魅力を全国にPRします。							
				4）ふるさと回帰の推進	■ 本市出身者がふるさとに戻ってくるために必要な仕事をはじめとする各種情報の発信や合同企業説明会の開催など、Uターン促進施策を推進します。					○地域とのつながり ・地域の人と交流する機会があるか？	・関係人口創出活動指数（地域への移住・関係人口創出プロジェクトの数／地域への移住・関係人口創出プロジェクトの発信可能者数／地域への移住・関係人口創出プロジェクトの関心度）		
				5）ふるさと教育の推進	■ Uターンや地元への定住を選択してもらうための取組として、小さい頃から郷土の魅力や価値を学び、郷土を愛し、誇りを持つことのできるふるさと教育を進めます。								
				1-2. 「観光立市」の推進による交流人口の拡大	1）世界遺産の戦略的活用による国内外からの誘客促進	■ JR紀伊田辺駅から開隆神社周辺の賑わいの創出と歴史・文化的景観にふさわしいまちづくりを推進します。 ■ 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」を核とした誘客促進や観光客の受入体制の整備を推進するとともに、熊野古道及び周辺環境の保全の充実を図ります。 ■ 熊野古道の玄関口としての強みを生かした情報発信を行うとともに、市民の意識醸成を図ります。	■ 熊野古道の玄関口にふさわしい街なかの景観整備 ■ 国内外へ向けた魅力や情報の発信 ■ サンティアゴ・デ・コンポステラ市との観光交流の推進 ■ 高野山と龍神・熊野地域を結ぶアクセスバスの運行 ■ おもてなし力向上のための研修等の実施と情報発信 ■ 二次交通の充実検討等	・観光客入込客数 ・市内の宿泊客数 ・外国人宿泊客数	・田辺観光協会 <a href="https://www.tanabe-kanko.jp/">https://www.tanabe-kanko.jp/</a>	○遊び・娯楽 ・娯楽の機会が十分にあるか？  ○都市景観 ・素敵な都市景観があるか？  ○自然景観 ・きれいな自然の景色があるか？	・人口あたり娯楽事業所数  ・都市景観指数（「都市景観大賞」受賞の市区町村／景観条例の有無／景観重要建造物の有無／景観協定の有無）  ・自然景観指数（国立・国定・都道府県立公園の有無／「美しい日本のむら景観百選一覧」／景観重要樹木の有無／重要文化的景観）		
					2）観光プロモーションの推進	■ 熊野古道をはじめとする世界に誇る観光資源を活用し、各地域と連携した観光情報の発信を行います。また、中辺路ルートだけでなく、伊勢路ルート等の熊野エリアにおける他地域とも連携し、広域的な視点で新たな切り口の取組を推進します。 ■ 日本三美人の湯である龍神温泉の魅力を生かし、高野山との共同プロモーションを通じて、国内外からの誘客を図ります。 ■ 世界で二例しかない「巡礼道」の世界遺産を有するサンティアゴ・デ・コンポステラ市との共同プロモーションをはじめ、国外向けの観光情報の発信を行い、国際的な観光地として海外からの観光客の誘客促進を図ります。			・田辺市観光プロモーション映像 <a href="https://www.city.tanabe.lg.jp/kankou/tanabe-douga.html">https://www.city.tanabe.lg.jp/kankou/tanabe-douga.html</a>	○自然の恵み ・豊かな自然環境はあるか？  ○文化・芸術 ・文化財が多く存在するか？	・水域へのアクセス度 ・オートキャンプ場への立地確立  ・国宝・重要文化財（建造物）の数 ・日本遺産の数		
					3）観光客の受入体制強化	■ 本市を訪れる全ての観光客に対するおもてなし力の向上をはじめ、近年、急増している海外からの観光客に対して、商店街や飲食店等がスムーズな接客ができるよう研修等を実施するとともに、キャッシュレス決済の導入支援や土産品等を購入する際に消費税の免税手続を行うことができる一括カウンターの設置等により観光客の受入体制強化を図ります。 ■ 観光客の利便性の向上を図るため、県をはじめとする関係機関と連携し、県内の他の観光地から市内各地域に点在する観光地を結ぶ二次交通の充実を検討します。 ■ 観光関連施設へのWi-Fi環境の整備や各種機能の充実を図ることで、観光地としての更なる魅力を高めます。 ■ 海・山・川の自然の恵みとそれぞれの地域の特色を生かした観光関連イベントの充実を図ることで、地域の魅力を高めます。 ■ 2020年東京オリンピック・パラリンピックや大阪・関西万博の開催等により、今後、訪日外国人の増加が見込まれることから、本市への外国人観光客の増加も見据えて、更なる受入体制強化に向けた取組を進めます。			・和歌山県「紀伊半島における交通・観光のデジタル化事業」 <a href="https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/digitaldenen/menubook/2022_summer/0099.html">https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/digitaldenen/menubook/2022_summer/0099.html</a> <a href="https://www.kii-pass.com/">https://www.kii-pass.com/</a>  「高野山・熊野」という二つの世界遺産エリアにて、共通のシステムにより、交通・観光等の多様なコンテンツを含むMaaSのサービスを提供することで、スマートフォンつで紀伊半島を周遊観光できるような環境を整備する。 令和5年11月30日に、令和5年度のキーバスの運用期間は終了。 （紀伊半島外国人観光客受入推進協議会 観光MaaS推進部会：田辺市 商工観光部 観光振興課長）				
					4）日本版 DMO や民間団体等との協働による取組強化	■ 田辺市熊野ツーリズムビューローをはじめ、関係団体等と連携し、地域の稼ぐ力を引き出すとともに、地域への誇りと愛着を醸成する観光地経営の視点に立った観光地域づくりを推進します。							
					5）多様なツーリズムの推進	■ 温泉や自然環境、豊かな食等の多様な地域資源の価値や魅力を高めるとともに、それらをツーリズムの資源として有効的に活用し、「スポーツ（運動）」、「ブルー（海）」、「グリーン（農）」、「フォレスト（森）」等の幅広い切り口で推進することにより、ツーリズム人口の拡大を図ります。							
	1-3. 地域と多様に関わる 関係人口の創出・拡大			1）都市・地域間交流の推進	■ これまで築き上げてきた相互理解と信頼関係を踏まえ、友好姉妹都市との共通点や互いの利点を生かした交流を推進します。特に、本市に最も近い政令指定都市である堺市との交流については、様々な角度から効果的な連携を図ります。	■ 連携する大学に対するフィールドワークへの助成 ■ 和歌山大学との連携による寄附講義の実施 ■ スポーツ合宿や企業の森参画企業に対する宿泊費用の助成 ■ 田辺スポーツパークや新武道館を核としたスポーツ合宿や大会の誘致 ■ 戦略的なシティプロモーション（関係人口創出事業）の実施 ■ ふるさと田辺応援寄附金に対する返礼品の拡充	・大学との連携協定締結件数 ・宿泊費助成制度利用件数 ・田辺スポーツパークを核とした県外からの合宿利用人数 ・本市が行う関係人口の施策を通じての地域活動の実践者 ・ふるさと納税リピーター件数		○地域とのつながり ・地域の人と交流する機会があるか？	・関係人口創出活動指数（地域への移住・関係人口創出プロジェクトの数／地域への移住・関係人口創出プロジェクトの発信可能者数／地域への移住・関係人口創出プロジェクトの関心度）			
					2）大学等との連携強化	■ 県内の大学との連携強化や県外の大学等との連携協定を推進し、大学に集積する知識やノウハウを生かした地域づくりを展開するとともに、本市でのフィールドワークや寄附講義等を通じて市民と大学生が交流できる機会をつくります。					○教育機会の豊かさ ・地域の教育水準は高く、教育の選択肢が多いか？	・大卒・院卒者の割合 ・大学・短期大学の数（可住地面積100km <sup>2</sup> あたり） ・可住地面積あたり国立・私立中高一貫校数 ・人口あたり生涯学習講座数 ・人口あたり生涯学習講座受講者数 ・人口あたり青少年教育施設利用者数 ・人口あたり女性教育施設利用者数	
					3）企業との連携強化	■ 市域で企業の森活動事業を行う民間企業や本市と縁のある方が経営する民間企業との連携を維持するとともに、引続き企業に本市の魅力や価値を体験してもらえような事業を継続します。							

■第2期田辺市総合戦略の全体像と地域幸福度（Well-Being）指標の対応表

基本目標	数値目標	施策の基本的方向	具体的な施策					田辺市の状況	地域幸福度（Well-Being）指標 （デジタル庁 <a href="https://well-being.digital.go.jp/">https://well-being.digital.go.jp/</a> ）	
			施策 大分類	施策 小分類	施策内容	主な事業	重要業績評価指標（KPI）		田辺市総合戦略に対応する 地域幸福度（Well-Being）指標	地域幸福度（Well-Being）指標 におけるKPI
基本目標2：安定したしごとづくり～地域の資源と人々の創意工夫によって、田辺ならではのしごとをつくる～	新規就業者数	➤ 農林水産業の生産基盤の強化や新たな販路開拓・消費拡大等を支援することで、販売額を高めます。 ➤ 農林水産業の担い手確保に取り組むとともに、生産性向上に向けたICT等の活用を推進します。 ➤ 創業や第二創業を支援することで、新たなしごとを創出します。 ➤ 企業立地の促進や市内企業への支援策を講じることで、企業の集積を促進します。	2-1. 農林水産業の“稼ぐ力”の強化	4）スポーツ含宿等の誘致	■ 田辺スポーツパークや新武道館（令和2年秋開館予定）を核として、スポーツ含宿や全国大会等の誘致を積極的に推進します。また、県や周辺市町と連携し、南紀エリアへのスポーツ含宿誘致を進めます。					
				5）関係人口の創出に向けた外部への魅力発信	■ 首都圏を中心とした戦略的なシティプロモーションやふるさと納税を通じて魅力や価値を発信することで、交流人口の拡大に加えて、関係人口の創出・拡大を図ります。 ■ シティプロモーションにおいては、関係人口養成講座の関西圏における事業展開を視野に検討を進めます。 ■ ふるさと納税においては、本市の特性を生かした返礼品の充実や寄付金活用先に焦点を当てた情報発信とともに、リピーター確保に向けた取組を併せて展開することで継続的に本市を応援してもらえる寄付者の拡大を図ります。			・ふるさと田辺応援寄附金 <a href="https://www.city.tanabe.lg.jp/furusato/">https://www.city.tanabe.lg.jp/furusato/</a>	○文化・芸術 ・芸術家が多く集まっているか？	・従業者数における芸術家・著述家等の割合
				1）農業の振興	■ 基幹作物である梅・柑橘を中心とする果樹栽培に対する生産支援を行います。 ■ 野菜・花きとの複合経営への支援等を行い、農家経営の安定化やリスクの分散を図ります。 ■ 農業後継者の育成や新規就農者への営農支援等を行うことで、農業の担い手確保を進めます。また、JAと連携して外国人労働者等の多様な人材の活用も検討します。 ■ 関係機関等と連携し、農作業の負担軽減に向けて、農業へのICTの活用を検討します。 ■ イノシシやシカ、サル等の捕獲に対する補助をはじめ、狩猟免許取得に係る支援、防護柵の設置等の有害鳥獣対策を総合的に推進し、農家の収益確保を図ります。また、ICTを活用した鳥獣害対策も併せて推進します。 ■ 梅や柑橘における取扱量の拡大を図るため、海外輸出に対する支援を行うとともに、大手量販店等とタイアップした販売PRを実施することにより、国内外におけるブランド化を推進します。 ■ 大学やJAと連携して梅の機能性研究を行うとともに、新商品の開発支援や食育を推進する等、梅の消費拡大・販路開拓を推進します。 ■ みなべ町や県、関係団体等と連携を図り、世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」の保全と活用を推進します。	■ 梅の土壌改良や改植更新への支援、柑橘のマルチ資材購入等に対する補助 ■ ハウス等の農業用施設の整備補助 ■ 農業後継者の育成や新規就農者に対する営農支援 ■ 梅や柑橘の海外輸出への支援 ■ 梅の機能性研究への支援 ■ 世界農業遺産の保全や活用に向けた取組	・新規就業者数（農業） ・主要農産物生産量（梅） ・主要農産物生産量（みかん） ・農地面積 ・農作物被害額	・田辺市鳥獣被害防止計画（令和5年度）：ニホンザルの捕獲を中心に、市鳥獣害対策協議会所有のICTを活用した大型おりを地域に貸し出し、市内8箇所での捕獲を実施。令和3年度より捕獲わな長距離無線式パトロールシステム「ほかバト」を導入し、主に有害捕獲の担い手となっている農家のわな見回りの負担軽減・効率化のため、地域に機器を貸し出し、農家担い手の確保を目指している。 <a href="https://www.city.tanabe.lg.jp/nougyou/files/higai-bousikeikakuR06-08.pdf">https://www.city.tanabe.lg.jp/nougyou/files/higai-bousikeikakuR06-08.pdf</a>	○雇用・所得 ・十分な雇用機会があるか？  ・適切な水準の所得を得られるか？  ○自然の恵み ・豊かな自然環境はあるか？	・完全失業率 ・若年層完全失業率 ・正規雇用者比率 ・高齢者有業率 ・高卒者進路未定者率 ・市区町村内で従業員している者の割合 ・創業比率  ・納税者あたり課税対象所得  ・食料供給ポテンシャル
	実績	目標	2）林業の振興	■ 地理的、地形的な制約を踏まえ、ICT等の活用や高性能機械の導入等による林業技術の向上や、林道・作業道等の路網整備、森林施策の集約化等により、低コスト林業と生産性の向上を図ります。 ■ 森林の有する多面的機能の維持・発揮と材の安定生産を図るため、「林業成長産業化地域創出モデル事業」を推進します。 ■ 不足する林業従事者の確保や高齢化による林業技術の次世代への継承を図るため、新たに林業に従事する方への就業支援を行います。 ■ 紀州備長炭をはじめ、サカキやシキミ等の特用林産物の生産者に対する支援を行います。 ■ 紀州材の利用に向けて公共施設等の木質化を進めるとともに、木質バイオマスエネルギーの利用の支援を検討する等、木材利用の拡大を図ります。 ■ 森林環境譲与税を活用しつつ、森林経営管理法に基づき、手付かずの人工林の整備や経営管理等の新たな仕組みを構築し、運用することで、森林が有する多面的な機能を維持及び発揮させ、林業の成長産業化を推進します。	■ 林道等の整備への補助 ■ 林業成長産業化地域創出モデル事業（高性能林業機械の導入補助等） ■ 木質バイオマスエネルギー利用支援	・新規就業者数（林業） ・原木取扱量 ・森林整備面積		○自然の恵み ・豊かな自然環境はあるか？    ○環境共生 ・空気はきれいか？ ・地球環境への負荷が高くないか？	・水供給ポテンシャル ・木材供給ポテンシャル ・炭素吸収量 ・蒸発散量 ・地下水涵養量 ・リン酸除去量 ・NO2吸収量 ・SO2吸収量 ・洪水調整量 ・表層領域からの安全率 ・緑地へのアクセス度  ・窒素酸化（NOx）年平均値 ・微小粒子状物質（PM2.5）年平均値 ・ごみのリサイクル率 ・人口あたり年間CO2排出量 ・人口あたり再生可能エネルギー容量 ・環境政策指数（SDGs未来都市／2050年ゼロカーボンシティの表明／気候変動イニシアティブへの参加／「地域循環共生圏実践地域」活動団体／脱炭素先行地域／ゼロカーボンパーク）	
	197人（H27～H30の累計）	250人（R2～R6の累計）		3）水産業の振興	■ 水産資源の増大や漁場環境の改善をはじめ、漁業経営の安定化、担い手の育成等に資する新たな事業構築に向けた取組を推進します。 ■ 「つくり育てる漁業」を進めるとともに、豊かな漁場づくりを推進します。 ■ 近年、ヒロメの生育不良に伴う漁獲量の減少が深刻となる中で、漁獲量を増加させるため、ヒロメの生育海域の調査研究及び新たな漁場造成に取り組めます。 ■ 漁業者の担い手確保を図るため、漁業を職業として本市に定住しようとする方を支援します。	■ ヒロメの生産環境等調査や漁場造成に対する支援 ■ 担い手確保に向けた漁業就業体験の実施	・新規就業者数（漁業） ・漁獲量		○雇用・所得 ・十分な雇用機会があるか？   ・適切な水準の所得を得られるか？  ○自然景観 ・きれいな自然の景色があるか？  ○自然の恵み ・豊かな自然環境はあるか？  ○自然災害 ・自然災害のリスクは高いか？	・完全失業率 ・若年層完全失業率 ・正規雇用者比率 ・高齢者有業率 ・高卒者進路未定者率 ・市区町村内で従業員している者の割合 ・創業比率  ・納税者あたり課税対象所得  ・自然景観指数（国立・国定・都道府県立公園の有無／「美しい日本のむら景観百選一覧」／景観重要樹木の有無／重要文化的景観）  ・食料供給ポテンシャル ・水域へのアクセス度  ・（ハザードKPI）危険度を「災害危険エリアの居住人口割合」として、1～5の自然災害ごとに算出（1. 外水氾濫危険度／2. 高潮危険度／3. 土砂災害危険度／4. 地震動危険度／5. 津波危険度）

■第2期田辺市総合戦略の全体像と地域幸福度（Well-Being）指標の対応表

資料8

基本目標	数値目標	施策の基本的方向	具体的な施策					田辺市の状況	地域幸福度（Well-Being）指標 （デジタル庁 <a href="https://well-being.digital.go.jp/">https://well-being.digital.go.jp/</a> ）					
			施策 大分類	施策 小分類	施策内容	主な事業	重要業績評価指標（KPI）		田辺市総合戦略に対応する 地域幸福度（Well-Being）指標	地域幸福度（Well-Being）指標 におけるKPI				
		2-2. 市内事業所の競争力強化と集積促進	1）経営改善への支援	■事業所の育成強化を図るため、関係機関と連携し、経営技術の個別相談や専門家による経営診断指導を行います。 ■信用保証料への補助や中小企業者等に対する貸付金の利子の一部を補助するなどの金融支援を行うことで、経営基盤の強化と経営改善への支援を進めます。 ■地場産品のブランド化の推進や市内事業所に対する新商品の開発を支援することで、対外的な競争力の強化を図ります。	■創業支援セミナーの開催や創業に関するワンストップ相談窓口の設置	・新設事業所の従業員数 ・企業立地促進奨励金指定事業所の従業員数 ・1事業所当たりの製造品出荷額等 ・1事業所当たりの商品販売額	○事業創造 ・スタートアップが振興する環境があるか？	・クリエイティブ産業の事業所の構成比 ・新規設立法人の割合 ・従業員あたりコワーキングスペースの数 ・大学発ベンチャー企業数						
			2）創業・第二創業への支援	■地域の特性を生かした新規創業を後押しするため、創業支援事業計画に基づく創業支援セミナーの開催や創業に関するワンストップ相談窓口の設置、新規開業に係る資金の融資を受けた場合における利子補給制度を実施します。 ■商店街において開業時における空き店舗の改修費等を助成します。 ■産官学金が一体となり、地域課題の解決や地域資源の活用をビジネスの視点で考える人材の育成とビジネスモデルの創出に取り組みます。また、地域を担う多様な人材の育成に向けて、女性の創業を促す取組を展開するほか、これらの取組の広域的な展開を視野に入れて検討を進めます。 ■市街地活性化施設を拠点に既存事業者や新規開業者の交流を促進する創業セミナーやミーティングを開催します。また、起業・創業に関する相談や人材マッチング、空き家及び空き店舗情報の窓口を設置し、市街地での起業・創業を支援します。	■新規開業に係る利子補給や開業時における空き店舗等の改修費用の助成 ■第二創業を目指したビジネス実践塾の実施	・創業支援セミナー受講者のうち創業した件数 ・新規開業資金利子補給制度利用件数 ・ビジネス実践塾受講者のうち第二創業した件数			・田辺市定住支援協議会 SUMORA TANABE <a href="https://tanabegurashi.jp/">https://tanabegurashi.jp/</a> ・和歌山県公式移住ポータルサイト わかやまLIFE> 空き家バンク情報 <a href="https://www.wakayamagurashi.jp/house/">https://www.wakayamagurashi.jp/house/</a>					
			3）企業立地の促進	■市内への進出・立地を検討している事業所に対する情報提供や、雇用や経営等に対する奨励制度により企業立地を促進するとともに、進出後におけるフォローアップにも努めます。 ■和歌山県や民間との連携により、都会を離れて地方などで仕事をしながら充実した余暇を過ごすワーケーションを推進することで、テレワークやIT企業等の立地を促進します。 ■市内事業所の事業規模拡大に対する支援を実施するとともに、市外への移転防止に向けた対策等を検討します。	■企業立地促進奨励金制度による本市への企業立地と市内企業者の事業規模拡大の支援 ■市内事業所の市外への移転防止策の検討	・企業立地促進奨励金指定事業所数								
基本目標3：結婚・出産・子育て支援 ～生まれた子供が独り立ちするまでの支援環境をつくる～	合計特殊出生率		➤結婚・出産・子育てに係る切れ目のない支援を行うことで、安心して子供を産み育てられる環境を創出します。 ➤ひとり親世帯や小学生から高校生までの子育て世帯に対する支援を充実させ、経済的及び精神的な負担軽減を図ります。	3-1. 出会いの場づくり	1）結婚支援	■関係機関等と連携し、結婚に対する機運の醸成を図るとともに、世代や地域のニーズを考慮した男女の出会いの場の提供等、結婚を支援します。	■男女の出会いの場の提供	・婚姻件数 ・結婚支援事業への参加者数	○子育て ・子育てを支える施設へのアクセスが良く、施設規模も適切か？	・合計特殊出生率				
	実績	目標		3-2. 子供の誕生への支援	1）妊婦等への経済的支援 2）妊産婦へのサポート体制の充実	■経済的な支援として、妊婦の健康診査への助成を継続するとともに、不妊治療に対する治療費の助成を行います。 ■出産前のマタニティスクールやパパママ教室の開催、出産後の保健師等の各家庭への訪問や育児に係る悩み相談など、出産や育児に不安や悩みを抱える妊産婦の身体的、精神的な負担を解消する取組を進めます。	■不妊治療費の助成 ■妊婦の健康診査への助成 ■保健師等による生後4か月までの家庭への全戸訪問の実施 ■母子健康包括支援センター「たなっこ」による総合的な支援等	・不妊治療の助成件数 ・妊婦健康診査受診率 ・妊娠、出産支援の満足度			・田辺市HOME > 健康増進課 > 親と子どもの健康〔健康増進課〕> 母子健康手帳アプリ <a href="https://www.city.tanabe.lg.jp/kenkou/oyako/boshitetyou-apuri.html">https://www.city.tanabe.lg.jp/kenkou/oyako/boshitetyou-apuri.html</a>			
	出生者数				3-3. 子育て環境の充実	1）育児・子育てへの支援	■子ども医療費の助成や多子世帯及び低所得者世帯への保育料等の減免、家事・育児への訪問支援等を行うことで、子育て世帯の負担軽減を図ります。 ■育児相談や発達相談、家庭児童相談等の子育てに関する各種相談窓口を設置することで、子育て世帯の不安の解消を図ります。 ■ファミリーサポートセンターにおける子供の一時預かりやひとり親世帯への支援等、育児への支援体制を充実します。 ■市内事業所等に対し、出産・育児に係る職場の理解を高めるための広報活動や育児休業制度の普及促進等、仕事と育児が両立できるよう働きかけます。	■子ども医療費の助成の実施 ■ひとり親世帯や多子世帯に対するファミリーサポートセンター利用料等の助成			・この地域で今後も子育てしたいと思う子育て世代の割合 ・ファミリーサポートセンター利用者数	○子育て ・子育てを支える施設へのアクセスが良く、施設規模も適切か？	・最寄りの保育所までの距離が1000m未満の住宅の割合 ・幼稚園数（可住地面積100kmあたり） ・一施設当たり幼稚園児数 ・人口あたり待機児童数 ・歳出総額における教育費の構成比	
	実績	目標		2）保育環境の充実	■保護者の就労形態の多様化への対応や女性の活躍推進等に向けて、休日保育や低年齢児保育、時間外保育等の保育サービスを充実するとともに、認定こども園の整備を推進します。また、障害児保育や病児保育等の多様な保育ニーズに対応します。	■休日保育や低年齢児保育、時間外保育等の保育サービスの充実	・時間外保育利用者数							
	2,000人 （H27～H30の累計）	3,000人 （R2～R6の累計）		3）子供の居場所づくり	■学童保育所の運営や山村地域における長期休業中の子供の居場所づくり、放課後子ども教室の実施等、子育てをしやすい環境づくりを推進します。	■学童保育所の運営や行政局管内における子供の居場所づくりの実施等	・子供の居場所設置箇所数							
					4）教育への支援	■小・中学校における就学援助費等の支給やスクールバスの運行、高等学校への通学及び下宿に要する費用の補助など、就学環境の充実を図ります。 ■公立学校の耐震化や安心で安全な学校給食の実施等により、教育環境の充実を図ります。 ■小・中学校におけるICT環境の整備や教員の指導力強化により、ICT活用教育を推進します。 ■老朽化した学校施設の計画的な改修や修繕により、教育環境の改善を図ります。 ■安心・安全メールシステムの運用や児童館事業の充実等により、青少年の健全育成を図ります。	■高等学校への通学及び下宿に要する費用の助成 ■小・中学校における高速大容量ネットワーク環境の整備と児童・生徒1人1台の学習用端末整備 ■老朽化した学校施設の計画的な整備	・児童・生徒1人に対する学習用端末整備率			・田辺市不審者情報連絡システム『安心・安全メール』 <a href="https://www.city.tanabe.lg.jp/gakkou/aamail.html">https://www.city.tanabe.lg.jp/gakkou/aamail.html</a> ・R5補正予算TYPE1「遠隔合同授業環境整備事業」市域には小中学校が39校点在しており、中山間部を中心に小規模校が多くあることからコミュニケーションの機会が不足していることが課題となっている。市内小中学校全校の教室に電子黒板機能付き大型提示装置を配置し、オンライン通信を用いた遠隔地学校等との同時双方向授業の展開を図る。	○初等・中等教育 ・教育環境（小学校・中学校・高校）は整っているか？  ○教育機会の豊かさ ・地域の教育水準は高く、教育の選択肢が多いか？	・小学校数（可住地面積100kmあたり） ・中学校数（可住地面積100kmあたり） ・高等学校数（可住地面積100kmあたり） ・一施設当たり小学生数 ・一施設当たり中学生数 ・一施設当たり高校生数  ・大卒・院卒者の割合 ・大学・短期大学の数（可住地面積100kmあたり） ・可住地面積あたり国立・私立中高一貫校数	
基本目標4：暮らし続けることのできるまちづくり～街なかの元気と山村地域の安心な暮らしをつくる～	中心市街地に魅力があると認む市民の割合		➤空洞化が顕著な商店街の活性化を進めるとともに、市街地活性化施設「tanabe en+」（令和2年8月開館予定）を拠点とした地域の情報発信や田辺の三偉人を核とした取組により、街なかの賑わい創出と周辺促進を図ります。 ➤地域コミュニティの活性化を推進することにより、山村地域の暮らしを守ります。 ➤誰もが個性と多様性を尊重され、自分らしく暮らし続けることができるまちづくりを推進します。 ➤広大な市域を有する本市において、	4-1. 街なかの魅力づくり	1）商店街の活性化	■空洞化が進む商店街において、空き店舗への新規開業に対する支援を行うことで商店街の活性化を図ります。 ■関連神社等への観光客の増加に伴い、商店街への来訪者数の増加に対応するため、来訪者に対するおもてなし力向上のための事業やキャッシュレス決済の導入支援、外国人向けに消費税の免税手続きを行う一括カウンターの設置等、受入体制の強化を図ります。	■商店街の空き店舗における新規開業に対する助成 ■おもてなし力向上のための研修等の実施と情報発信	・商店街における歩行者・自転車通行量 ・商店街における新規出店件数 ・田辺市文化交流センター「たなべる」来場者数	○買物・飲食 ・日常生活必需品へのアクセスがよく、混雑せず十分なサービスを受けることが可能か？  ○移動・交通 ・公共交通機関へのアクセスが良く、自家用車に依存し過ぎない生活は可能か？	・商業施設徒歩圏人口カバー率 ・商業施設徒歩圏平均人口密度 ・人口あたり飲食店数 ・可住地面積あたり飲食店数  ・駅またはバス停留所徒歩圏人口カバー率 ・駅およびバス徒歩圏（800m、300m）人口密度 ・一人当たり小型車走行キロ ・通勤通学に自家用車・オートバイ・タクシーをいない割合				



■第2期田辺市総合戦略の全体像と地域幸福度（Well-Being）指標の対応表

資料8

基本目標	数値目標		施策の基本的方向	具体的な施策				田辺市の状況	地域幸福度（Well-Being）指標 （デジタル庁 <a href="https://well-being.digital.go.jp/">https://well-being.digital.go.jp/</a> ）							
				施策大分類	施策小分類	施策内容	主な事業		重要業績評価指標（KPI）	田辺市総合戦略に対応する 地域幸福度（Well-Being）指標	地域幸福度（Well-Being）指標 におけるKPI					
	実績	目標	各地域間の連携を強化するとともに、周辺自治体等との連携を推進することで、広域的な行政課題に適切に対応します。 ➤公共交通や <b>情報インフラの充実</b> によって、どこに暮らしていても一定の生活水準が確保できるような地域づくりを進めます。	2）街なかの賑わい創出	■街なかで実施される各種イベントに対する支援や、街なかに立地する公共施設における取組の充実により、街なかの周遊促進と賑わいの創出を図ります。 ■市街地活性化施設「tanabe en+」を拠点とし、地域の魅力の情報発信を行うとともに街なかの賑わい創出を図ります。 ■田辺の三偉人である植芝盛平（新武道館及び植芝盛平記念館）、南方熊楠（南方熊楠顕彰館）、武蔵坊弁慶（闘雞神社）や街なかポケットパーク（観光案内所）を中心とした市街地周遊の促進を図ります。	■商店街で実施される各種イベントへの補助 ■田辺の三偉人を活用した市街地周遊の促進	・南方熊楠顕彰館入館者数 ・植芝盛平記念館入館者数 ・肩ヶ浜海水浴場来場者数	・tanabe en+（タナベエンプラス） <a href="https://tanabe-enplus.jp/">https://tanabe-enplus.jp/</a>	○遊び・娯楽 ・娯楽の機会が十分にあるか？  ○公共空間 ・公園や緑地等の公共空間が、混み過ぎず、かつ徒歩圏に存在するか？  ・歩きたくなる街並みか？	・人口あたり娯楽事業所数  ・公園や緑地等歩園人口カバー率 ・人口あたり公園の面積  ・歩道設置率 ・ウォーカブル指数（ウォーカブル推進都市／ウォーカブル推進都市のうち潜在快適性等向上区域を設定している自治体／「地方版自転車活用推進計画」の有無）						
					4-2. 活力ある山村づくり	1）山村地域の活性化	■山村地域の活性化を図るため、過疎生活圏単位で集落再生・活性化への取組を進めることで、地域が主体となった自立性の高い地域づくりを推進します。 ■過疎や高齢化が著しく進行し、集落機能の低下等の問題が深刻化している集落に対して、集落支援員による支援を継続して実施します。 ■産業振興及び地域づくりによる持続可能な仕組みを構築するため、地域が関係する大学等による研究機関の立地に向けて検討を進めます。	■集落支援活動の維持 ■研究機関の立地に向けた検討	・生活圏事業実施箇所数 ・集落支援活動の維持	・2021年度TYPE1「市民の利便性向上のためのビデオ会議システムの導入」 行政局と本庁舎や市民総合センターを相互にビデオ会議システムを活用したネットワークで繋ぐことにより（行政局間の接続を含む）、本庁舎等へ来庁することなく従来通りの対面による行政相談や問い合わせが出来、また、関係団体等との会議についても効率的な開催が可能となり、市民の利便性が向上する。  ・R5補正予算TYPE1「キャッシュレス事業」本市の手続等に係る決済手段は現金や郵便小為替が主で、利便性の向上が課題となっている。そこで、市民課等にお						
					4-3. 誰もがいきいき暮らせるまちづくり	1）共生のまちづくり	■誰もが個性と多様性を尊重され、それぞれの能力が発揮されるとともに、自分らしく暮らし続けられる共生社会の実現に向けて取組を推進します。 ■「たなべあんしんネットワーク」活動の推進により、住民が抱える福祉課題を発見・把握し、地域でそれらを解決していくための、住民相互による助け合いの仕組みづくりを進めます。また、多様化・複雑化する福祉課題に対応するため、生活圏域ごとに包括的・総合的な相談支援体制の整備を進めるとともに、地域住民主体の福祉活動と各種法制度に基づく社会福祉サービスを総合化するネットワークづくりを推進します。	■たなべあんしんネットワーク活動の推進 ■共生社会の実現に向けた啓発や広報、各種相談事業の実施			○地域とのつながり ・孤独を感じる人は少ないか？  ・地域の人と交流する機会があるか？  ○多様性と寛容性 ・多様な社会を実現できているか？	・人口あたり自殺者数 ・拡大家族世帯割合 ・既婚者割合（15歳以上人口） ・高齢単身世帯の割合 ・居住期間が20年以上の人口の割合  ・祭り開催数 ・自治会・町内会加入率 ・人口あたり政治・経済・文化団体の数 ・人口あたり宗教の事業所数 ・人口あたりNPOの数 ・人口あたり都市再生推進法人・アーバンデザインセンター（UDC）の数  ・市区町村議会における女性議員の割合 ・自治体における管理職の女性割合 ・自治体職員における障害者の割合 ・人口あたり外国人人口 ・多様性指数（パートナーシップ宣誓制度の有無／性の多様性に関する条例の有無／障害差別解消に関する条例の有無／子どもに関する条例の有無／バリアフリー基本構想の有無／男女共同参画条例・ジェンダー平等条例）				
	実績	目標		2）健康寿命の延伸	■「自分の健康は自分でつくり守る」という意識の高揚を図るとともに、市民団体や関係機関との協働により、市民の主体的な健康づくりを推進します。 ■生活習慣病や各種がんの予防・早期発見・早期治療に向け、特定健康診査や各種がん検診、特定保健指導に取り組みます。また、AⅠを活用した受診勧奨等により、特定健康診査受診率の向上を図ります。	■各種検診の実施と結果に基づく保健指導の徹底 ■AⅠ活用による特定健康診査未受診者の特性に応じた受診勧奨の実施	・特定健康診査受診率 ・特定保健指導実施率	・田辺市安心安全コールサービス・認知症高齢者等見守りサポートシステム <a href="https://www.city.tanabe.lg.jp/yasuragi/kourei/fukushiservice.html">https://www.city.tanabe.lg.jp/yasuragi/kourei/fukushiservice.html</a>  ・R5補正予算TYPE1「介護認定審査会デジタル化事業」田辺市で運営している介護認定審査会（6合議体、1合議体に委員各6名）の紙資料を電子データ化し、タブレット端末から閲覧する方式に変更することで、ペーパーレス化及び事務効率化を図り、要介護認定の申請から認定までに係る期間を短縮することで、介護サービスを必要とする方が早期にサービス利用を開始できる体制を構築する。	○健康状態 ・市民は健康であるか？  ○医療・福祉 ・医療機関へのアクセスが良く、混雑せずに診療をうけることが可能か？  ・市民は健康であるか？	・健康寿命（平均自立期間）（男性） ・健康寿命（平均自立期間）（女性）  ・医療施設徒歩圏人口カバー率 ・医療施設徒歩圏平均人口密度  ・人口あたり国民健康保険者医療費 ・人口あたり後期高齢医療費 ・特定健診・保健指導実施状況						
											3）高齢者の活躍の場づくり	■シルバー人材センター等、高齢者の就業等に係る機関との連携を強化し、高齢者の就労意欲やニーズに対応した就業機会の拡大等に向けた取組を支援します。 ■シルバー人材センターの会員のうち、市が指定する講座を受講した上で要支援認定者等の日常生活の援助を担うことができる「ご近所ボランティア」の取組を推進し、高齢者の活躍の場を創出・拡大します。 ■高齢者が地域の中で活躍し、幅広く交流するための活動の場を整備するとともに、市民による自主活動への支援や社会参加の機会につながる講座・イベントの開催等、高齢者が生きがいをもって暮らせる環境づくりを進めます。	■介護予防・日常生活支援総合事業におけるボランティアの取組推進 ■高齢者の就労機会の確保に向けた取組	・ご近所ボランティア登録者数	○医療・福祉 ・介護・福祉施設へのアクセスがよく、混雑せず十分なサービスを受けることが可能か？	・福祉施設徒歩圏人口カバー率 ・福祉施設徒歩圏平均人口密度 ・人口あたり児童福祉施設数 ・人口あたり障害者支援施設数 ・人口あたり認知症サポーターメイト数
											4）障害のある人の活躍の場づくり	■障害のある人の経済的自立と安心した生活を支えるため、就労訓練を含む障害福祉サービスの利用に向けた取組の推進や、障害特性や障害のある人に対する理解の促進を図ります。 ■生涯にわたって文化芸術活動やスポーツに親しんでいただけよう障害のある人の社会参加を推進します。 ■令和3年秋に県が開催する「紀の国わかやま文化祭 2021（第36回国民文化祭・わかやま 2021、第21回全国障害者芸術・文化祭わかやま大会）」に向けて、参加準備を進めます。 ■相談支援の充実に向けて、障害児者相談支援及び基幹相談支援センターについて圏域内市町と連携し、広域化を視野に入れながら、段階的に機能強化を図ります。	■障害のある人の経済的自立に向けた取組	・一般就労移行者数（障害のある人）		
	13% (H28)	20% (R6)			5）地域力の強化	■住み慣れた地域で暮らし続けるために、地域住民自身が地域課題を解決する仕組みづくりと持続的に取り組む組織体制の構築を推進します。			○自己効力感 ・選挙を通じて、自分の意思が社会に反映することができるか？	・首長選挙投票率 ・市区町村議会投票率						
		4-4. 地域のつながり強化	1）各地域間の連携強化		■広大な市域を有する本市において、地域間を結ぶ路線バスの維持・確保や市街地と山村地域を結ぶ道路の整備を行うなど、人・モノの交流を促進し、市街地と山村地域間の連携を強化します。	■高野山と龍神・熊野地域を結ぶアクセスバスの運行										
			2）広域での連携強化		■社会経済情勢の変動等により多様化する行政課題に対し、従来の広域連携に留まらず、「現在の取組」、「近々に着手すべき取組」、「中長期的に検討すべき取組」という3つの視点で、役割分担も含めて周辺自治体と共通認識を図り、新たな広域行政の具体化に向けた取組を推進します。 ■観光やスポーツ、地域特産品の販路や消費の拡大、世界農業遺産の保全と活用など、県内外を含めた広域市町村と連携した取組を進めます。	■周辺自治体との連携による医療やごみ処理等の共同処理事業の推進 ■周辺自治体と連携したスポーツ含宿務数に向けた取組 ■世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」の保全と活用に向けた取組	・共同処理事業数 ・本市の強みを生かした戦略的な広域連携事業数	○環境共生 ・地球環境への負荷が高くないか？	・ごみのリサイクル率 ・人口あたり年間CO2排出量 ・人口あたり再生可能エネルギー容量							

■第2期田辺市総合戦略の全体像と地域幸福度（Well-Being）指標の対応表

基本目標	数値目標	施策の基本的方向	具体的な施策			田辺市の状況	地域幸福度（Well-Being）指標 （デジタル庁 <a href="https://well-being.digital.go.jp/">https://well-being.digital.go.jp/</a> ）			
			施策 大分類	施策 小分類	施策内容		主な事業	重要業績評価指標（KPI）	田辺市総合戦略に対応する 地域幸福度（Well-Being）指標	地域幸福度（Well-Being）指標 におけるKPI
			4-5. 公共インフラの効果的な活用	1）公共交通の利便性向上	■路線バス事業者と連携し、民間バス路線の運行維持を図るとともに、行政局管内で運行している住民バスの運行形態の見直し等、地域の実情に即した移動手段の確保を図ることで住民の利便性の向上を図ります。 ■JRや県、関係自治体と連携し、JR紀勢本線の利便性や快適性の向上を図ります。 ■県をはじめ、周辺自治体や関係団体との連携により、南紀白浜空港の利用促進と路線の維持確保等に取り組みます。	■田辺市地域公共交通網形成計画に基づく各種取組の実施	・バス利用者数	・田辺市内を運行する路線バス・住民バスのご案内 <a href="https://www.city.tanabe.lg.jp/kikaku/bus/bus_goanai.html">https://www.city.tanabe.lg.jp/kikaku/bus/bus_goanai.html</a>	○移動・交通 ・公共交通機関へのアクセスが良く、自家用車に依存し過ぎない生活は可能か？  ・通勤時間は過度な負担ではないか？	・駅またはバス停留所徒歩圏人口カバー率 ・駅およびバス停徒歩圏（800m、300m）人口密度 ・一人当たり小型車走行キロ ・通勤通学に自家用車・オートバイ・タクシーを用いない割合  ・職場までの平均通勤時間
			2）道路ネットワークの整備	■市街地と山村地域をはじめ、各地域を結ぶ地域間道路ネットワークの整備推進について、県等に対して要望を行います。 ■都市計画道路や市道の計画的な整備や改良を進め、利便性、安全性の向上を図るとともに、社会情勢の変化に合わせた都市計画道路網の見直しを進めます。 ■県や周辺自治体と連携し、近畿自動車道紀勢線における4車線化の早期実現に向けた取組を推進します。	■都市計画道路、市道等の整備		・R5補正予算TYPE1「田辺市公開型GIS構築事業」誰もが容易にインターネットを介して素早くアクセスができる公開型GISサービスを導入し、市民が投稿機能を使って地図上で損傷箇所を示すことで、修繕までの時間が短縮され、安全に生活ができるようになる。	○事故・犯罪 ・交通事故は少ないか？	・人口あたり交通事故件数	
			3）情報通信基盤の整備	■超高速・超低遅延・多数同時接続等の通信が可能となる5G（第5世代移動通信システム）など、新たな通信技術・サービスの動向を的確に捉え、活用を検討します。		・広報田辺閲覧アプリ「マテイロ」 <a href="https://www.city.tanabe.lg.jp/kouhou/sonota/i-kouhoushi.html">https://www.city.tanabe.lg.jp/kouhou/sonota/i-kouhoushi.html</a>  ・田辺市LINE公式アカウント <a href="https://www.city.tanabe.lg.jp/kikaku/line.html">https://www.city.tanabe.lg.jp/kikaku/line.html</a>  ・田辺市X・Facebookアカウント <a href="https://www.city.tanabe.lg.jp/kikaku/sns.html">https://www.city.tanabe.lg.jp/kikaku/sns.html</a>  ・R5補正予算TYPE1「キャッシュレス事業」本市の手続等に係る決済手段は現金や郵便小為替が主で、利便性の向上が課題となっている。そこで、市民課等における証明書発行、スポーツ施設や観光施設利用時の利用料支払いでキャッシュレス決済ができるレジ等を導入するとともに遠隔地から証明書を請求する場合に郵送申請に替わり電子申請で手数料決済まで完結するシステムを導入することで窓口及び電子申請双方でキャッシュレス化を実現し、市民の利便性向上等を図る。	○デジタル生活 ・行政がデジタルの利活用を推進しているか？  ・デジタルが活用されるための環境が整っているか？	・自治体DX指数 ・デジタル政策指数（国土交通省Plateauの対象都市／地方版IoT推進ラボの有無／自治体によるオープンデータの有無／ローカル50開発実証事業採択の有無／スマートシティ合同審査結果／マイナンバーカード取得率／国勢調査ネット回答率／共創モデル実証プロジェクト／Digi田甲子園採択自治体／デジタル田園都市国家構想採択自治体）  ・デジタル生活指数（Code forの団体の有無／フアラボの有無／CoderDojoの有無／大学のICT関連学部の有無／高等専門学校の有無／人口あたり通信キャリア店舗数）		
			4）公共施設の適正管理と有効活用	■公共施設等総合管理計画に基づき、長期的な視点をもって公共施設の適切な維持管理や統廃合、長寿命化を推進します。また、公共施設の効果的・効率的な管理運営に向けて、民間資金や民間ノウハウの導入を検討します。			○地域行政 ・公共サービスは充実しているか？  ・公共サービスは持続可能か？  ○自然災害 ・自然災害のリスクが高くないか？	・人口あたり体育施設利用者数 ・人口あたり図書館退出者数 ・人口あたり博物館入館者数  ・地方公共団体の主要財政指数（財政力指数／経常収支比率／実質公債費比率／将来負担比率）  ・（防災対策KPI）ハード対策（公共施設の耐震化率）		
							・田辺市防災行政情報システム 防災・行政メール <a href="https://www.city.tanabe.lg.jp/bousai/bg-mail.html">https://www.city.tanabe.lg.jp/bousai/bg-mail.html</a>  ・防災行政無線 <a href="https://www.city.tanabe.lg.jp/bousai/bg-musen.html">https://www.city.tanabe.lg.jp/bousai/bg-musen.html</a>  ・2021年度TYPE1「デジタルツインの構築による地域の「魅力」・「価値」・「利益」の向上」 UAV（UnmannedAerialVehicle：無人航空機）測量（写真測量・レーザ測量）や、LiDar、SfM、3次元点群処理システムなどの技術を使って、街・地域・施設・文化資源・観光資源・景観資源などのデジタルツイン構築を行い、見える化を通じて、防災・消防、まちづくり、ファシリティマネジメント、環境・森林保全、景観・文化資源の保全、教育・生涯学習、ユニバーサルデザイン、空家・過疎・住民自治・移住定住、農林水産業、財務・契約など、多種多様・多角的なジャンルにおける行政課題の解決、地域が持つ「魅力」・「価値」・「利益」の向上、最大化を目指します。  ・R5補正予算TYPE1「田辺市公開型GIS構築事業」	○自然災害 ・自然災害のリスクが高くないか？  ・防災への取組や備えは充実しているか？	・（ハザードKPI）危険度を「災害危険エリアの居住人口割合」として、1～5の自然災害ごとに算出（1.外水氾濫危険度／2.高潮危険度／3.土砂災害危険度／4.地震動危険度／5.津波危険度）  ・（防災対策KPI）ハード対策（公共施設の耐震化率） ・（防災対策KPI）避難・救助（指定緊急避難場所の災害種別指定適切度／外水氾濫／高潮／土砂災害／津波） ・（防災対策KPI）要配慮者支援（避難行動要支援者名簿の作成・管理／個別避難計画の作成・管理） ・（防災対策KPI）防災教育（災害伝承碑の設置数） ・（防災対策KPI）防災まちづくり（立地適正化計画の作成状況／防災指針の作成状況） ・（防災対策KPI）情報・デジタル防災（マイナポータルへの防災証明発行手続きの導入）	